

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ウェリス京都修学院	階数	地下1階地上4階
建設地	京都府京都市左京区山端川端町32	構造	RC造
用途地域	第2種中高層住居専用・第1種住居地域	平均居住人員	115 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2011年4月 予定	評価の実施日	2011年4月13日
敷地面積	2,449 m ²	作成者	
建築面積	1,204 m ²	確認日	
延床面積	3,545 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.5

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	全ての屋根を大屋根とし庇を設ける、住棟をブロック分けすることで建物壁面が単調な面とならないようにする、外壁の色彩を自然に近い色にする等、風致地区である周辺の町並みに調和するよう配慮し、計画を行った。	その他 注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境	快適な生活を送る上で必要な、音・光環境に配慮した。(複層ガラス、開口部遮音性能 T-2 の採用)	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内に多くの植栽帯を設け、良好な環境を形成するよう配慮した。
LR1 エネルギー	特に無し。	LR3 敷地外環境 本体建物と道路境界の間の広い植栽帯は奥へ行くほど高木を配置することで、道路と建物をゆるやかにつなぎ、周辺環境との緩衝帯となるよう配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい